JUMP平安新聞

龍谷大学付属
平安中学校新聞同好会発行

報恩講

１１月１５日（金曜日）、平安高校・中学の生徒が参列しました。報恩講が執り行われました。

親鸞聖人の御命日は旧暦で１１月２８日ですが、浄土真宗本願寺派ではこれを新暦に改めて、１月１６日とし、１月９日から１６日までの間、報恩講を行っています。

御法話には、浄土真宗本願寺派布教使の牧野光博師にお越しいただき、人にはそれぞれ違う世界があるということを、自分の顔を知らない村人を描いた昔話や、ウサギとカメの童話に例えて、わかりやすくお話しくださいました。生徒達は、御法話を聞きながら、浄土真宗のみ教えに出会えたご縁に思いをはせていました。

（田中・木村）

涅槃会

２月９日火曜日、涅槃会が執り行われました。この日は、仏教の祖、釈尊が、８０歳で、御入滅されたとされ、毎年本校でも法要が営まれます。

この日の御法話の講師には、浄土真宗本願寺派布教使の、藤本哲史師が招かれ、釈尊のお心について、話題のニュースなどを通して、お話しくださいました。

参列した生徒達は、御法話に耳を傾けながら、仏教という偉大な遺産を残された、釈尊の遺徳を偲んでいました。

（船橋　維）

テスト

SUT5

冬休み明け油断していた一年生に襲いかかった恐怖・・・。そう、SUT5です。今回のSUT5では、冬休み中、テスト勉強を少しかやっていない人、少しもやってない人と、毎日たくさん勉強した人などとではずいぶん差が出ました。特に国語は暗記をしたら解ける漢字が１００点中４５点、約半分もありました。理科や社会も暗記する教科なので、勉強していなかった人は、悪い点数を取ってしまった人もいたかもしれません。今回のことを反省して次のテストでは、良い点を取れるようにしましょう。

（木村　優希）

進研Ｖ模試

三年生は、冬休み明け初日に高校受験前に行う模擬試験としては最後となる、進研Ｖ模試を受験しました。今回の全国平均は五教科二七六点という結果になり、平均を超えるためには一教科当たりの点数を七十点以上獲得することを求められたテストでした。高校入試においてこの模試の結果は個々のモチベーションに大きく影響したのではないでしょうか。

（金岩　未邑）

平安三大行事 English Day実施

２月２０日（土曜日）、「平安三大行事」の一つに数えられているEnglishDayが行われ、各学年の生徒が、今までに学んだ英語を駆使し、様々な発表を行いました。

１年生は、グループで学校生活について英語で話したり、英語での寸劇などを行っていました。

２年生は、友達などをテーマにしたグループ発表や、ディズニー映画「アラジン」と魔法のランプ」を模した演劇などを行っていました。

３年生は、事前に行われた、EnglishDay出場予選会で、選抜されたグループが、寸劇や、プレゼンテーションの発表を行っていました。

１年生の生徒の一人は、「どの学年も完成度の高い発表だったので面白かった。」とEnglishDayを振り返っていました。

（船橋　維）

生徒会選挙

新委員長・副委員長決する

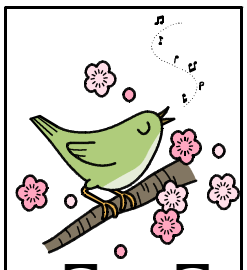
２月８日に公示された平安中学校生徒会執行委員、執行委員長、副委員長選挙は同月２２日投票が行われ、新執行委員長に、藤武優太君が、副委員長選挙では、坂本翔太君が選出されました。

執行委員長に選出された、藤武優太君は、同日に行われた立会演説会で中学生の購買部、食堂の使用制限の撤廃を訴え、選挙では信任票３０２票（支持率約９３％）を獲得。見事当選を果たしました。

執行副委員長に選出された坂本翔太君は、立会演説で、今後しっかり経験を積んで頑張りたいと訴えました。投票では、信任票２７４票（支持率約８４％）を獲得。当選を果たしました。

和田選挙管理委員長は、「公正に選挙が行われて、良かった。」と今回の選挙を振り返っていました。

現任の、船橋会長は新聞部の取材に対し、（裏面へ）



【行事報知】
報恩講・涅槃会・English Day・生徒会選挙
高校受験・芸術鑑賞
【特集】
自然災害とその対策・歩道でのマナー

「来年度の生徒会の活躍に期待したい。今回当選を果たした二人には、頑張ってほしい。今後、生徒会がさらに隆盛するよう念じている。」とコメントしていました。

新委員長、副委員長の任期は、４月１日からとなっています。

（金岩　未邑）

外部受験者と共に健闘 中３ 高校受験

２月１０日水曜日、中学３年生の生徒は、高校受験がありました。中高一貫コースの生徒は、他校受験者を除く全員が、平安高校選抜特進コースへの入学試験を受験することとなっており、今年も外部からの受験者と同様に受験番号を与えられた、本校３年生が受験に挑みました。当日は、朝から、校門前に塾関係者が立ち、外部受験者を応援するなど、いつもと違った光景も見られ、緊張した雰囲気でしたが、本校の３年生は全く動じず、普段通り、試験に、挑んでいました。

生徒の一人は、

「難しい問題もあったが、ある程度できた。」と話していました。

外部受験者に対する、合格発表は、同月１２日から行われ、入学に関する手続き等が開始されていました。

また、内部進学者に対しても、結果に応じた、進路指導等が行われることになっています。

（船橋　維）

芸術鑑賞 京都室内フィル来演

３月８日火曜日、芸術鑑賞が行われ、京都フィルハーモニー室内合奏団による、演奏を鑑賞しました。

当日は、「舞踏会の美女」（Ｌ・アンダーソン）や、オペラ「カルメン」前奏曲（ビゼー）、人気映画シリーズ「００７ジェームズボンド」のテーマ曲（ノーマン）などの幅広いジャンルの音楽が演奏されたほか、「ほうき」でできた、ユニークな楽器を用いた演奏が行われるなどし、生徒達は楽しそうに鑑賞していました。また、演奏の合間には、楽器の紹介や説明、ヴァイオリンの体験なども行われました。

鑑賞に出席した、生徒の一人は、

「普段、オーケストラの演奏を聴く機会はあまりないので、楽しめました。」と、話していました。

（船橋　維）

自然災害とその対策

近年、日本では、集中豪雨や、火山など人々に深刻な影響を与える自然災害が多発しています。

一口に自然災害と言っても例えば台風などの暴風雨もそうですし、また、五年前に東北地方を襲った地震や津波もその一例です。

今までにも、自然災害に対しては、行政や自治体が、防災ハザードマップの作成やシェイクアウト訓練の実施などを行い多種多様な自然災害に備えてきました。また、民間の企業でも、避難訓練への積極的な参加や、非常用飲用水の備蓄などが行われています。また、一部の私立大学では、有事の際、帰宅困難者や避難者を一時的に学舎内に受け入れる協定を行政と結ぶなど、官民問わず自然災害への対策は行われています。

それでも災害の被害をゼロにすることは難しいでしょう。実際に五年前の東日本大震災の際には、高台に建設されていた自治体庁舎や避難所が津波により浸水するなど、対策はしていても、実際被害が発生するのが現実です。

いつ起こるか分からない自然現象に備えるため、私たち自身が、家の設備等の確認や、避難ルートなどをしっかり把握したり、非常時の準備もしっかりしておくことが被害を抑えることにつながります。

自然災害は、私たちの身近にあり、常にそのリスクにさらされていることを意識しておくことが大切でしょう。

（田中総真）

歩道のマナー

皆さんは、歩道などの公共の場で周りに迷惑をかけていませんか？　例えば、横に細くて狭い歩道などで、広がってしゃべりながら歩いていたり、大声でしゃべりながら歩くことや、スマホをしながら歩くことなどです。さっき例で出した歩きスマホでは、前をあまり見ることができていない人や、自動車、電柱などに気付くのが、事故につながることもあります。

また、細くて狭い歩道や通路などで、大声でしゃべることは近所迷惑ですし、横に広がって歩けば、周りの人の邪魔になります。前から人が来た場合、道をあけようとしても、後ろは見えていないので、迷惑をかけていることもよくあります。

歩道などは皆で使う物なので、自分本位になることなく、マナーをしっかり守っていくことが大切です。それぞれがマナーを見直していけば、みんなが気持ちよく過ごせるようになるでしょう。

（木村　優希）

卒部に寄せて

今年度をもって、新聞同好会員、金岩未邑（記者）と船橋維（記者）が、卒業に伴い、卒部する運びとなりました。それに当たって、卒部生を代表し、ご挨拶申し上げます。

三年間、新聞発行に携わり、数多くのことを学ぶことができ、大変うれしく思っています。入部して以来三年、私たちは、中学部唯一の生徒主体のメディアとして、誇りを持って、活動を行ってきました。また、皆さんに如何に、的確な内容の情報を伝えられるか、如何に記者としての思いを伝えられるか、と私たちなりに、試行錯誤を重ね、毎号の新聞発行を行ったつもりです。至らぬ点も多々あったと思いますが、皆さんに、自らの手で記した記事を読んでいただけたことを心からうれしく思っています。

これで、後進に会を引き継ぐことになりますが、来年度も、記者３名がＪＵＭＰ平安新聞の発行に当たります。今後もＪＵＭＰ平安新聞をお引き立て頂きますよう、お願いいたします。

（船橋　維）